

### 代々木病院にマンモグラフィ機器設置

## 乳がん検診でマンモグラフィ検査をうけましょう

10月中旬、待望のマンモグラフィ機器が代々木病院に設置されました。乳がんの罹患率は年々上昇し、アメリカでは7人に一人、日本では20数人に一人となっています。ここ数年、友の会の皆さんや健診受診者の方からたいへんご要望の強かったマンモグラフィ検査ですが、いよいよ代々木病院でも本格稼働いたします。

そこで、皆さんが受診する前に疑問に思っていることや不安な点が多いと伺いましたので、いくつかお答えしたいと思います。

**Q1 マンモグラフィ検査って?**

乳がんをより正確に診断する方法の一つで、乳房及び乳腺専用のレントゲン撮影です。

**Q2 撮影方法はどのようですか?**

板状のもので乳房を挟みながら圧迫して撮影します。上下方向および左右方向から撮影します。(撮影方向、枚数はご確認ください。)

**Q3 マンモグラフィ検査では、なにがわかりますか?**

医師の触診だけでは

**Q4 痛みはありますか?**

圧迫しますので、個人差はありますが、多くの痛みはありません。

**Q5 生理中でもうけられますか?**

生理前には乳房が張って痛むことがあります。できれば生理中ではないときの検診が良いですが、必要な場合は、生理が始まってから2〜3日目以降が良いです。

**Q6 マンモグラフィ検査を受ける頻度はどのようですか?**

できれば定期的に視



放射線室に設置されたマンモグラフィ装置

触診とあわせて毎年受診してください。最低でも1年毎の受診がおすすめです。

**Q7 マンモグラフィ検査の対象年齢はどのようですか?**

乳腺の発達の関係で、40歳以上の方がおすすめです。30代までの方は視触診と超音波検査の併用実施が有効です。

**Q9 レントゲン撮影は、体への危険はないですか?**

マンモグラフィ撮影時の被曝量は人体への影響はほとんどありません。具体的には、東京からニューヨーク間の飛行時、宇宙からの自然放射線量の半分程度です。

おわりに

乳がんも早期に発見すれば治癒率の非常に高いがんです。これを機に代々木病院での乳がん検診をぜひお受けいただき、皆さんの健康管理にお役立てください。

**Q8 妊娠中、授乳中でもマンモグラフィ検査は受診しても問題はないですか?**

原則として避けて、専門医療機関を受診

**Q10 乳がん検診で「要精密検査」となったら?**

原則として避けて、専門医療機関を受診

### 友の会会員の皆様へ

#### 特定協力借入金募集終了のお知らせと地域協同基金・寄付金のおお願い

代々木病院へのマンモグラフィ導入など、東京勤労者医療会の医療・介護充実のために地域協同基金(無利息)・寄付金・特定協力借入金(有利子)のご協力をお願いしましたところ、代々木健康友の会会員の皆様をはじめ、多くの共同組織の皆様のご協力をいただき本当にありがとうございました。

2008年11月1日

代々木病院には10月、マンモグラフィを導入することができました。増加する乳がんの早期発見のために活用させていただ

お問い合わせ

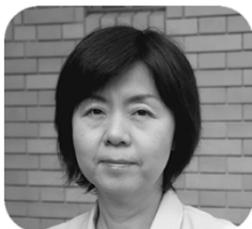
東京勤労者医療会経理部  
電話 03(53366) 68093  
FAX 03(53366) 64223

10月末をもって募集を終了いたしました。

## くすりの話あれこれ 45

### 薬剤師が行う訪問薬剤管理指導について

一由久美子(薬剤師・たくみ外苑薬局)



高齢化が進み、療養生活が長期に渡ることもあれば、多くの人は病院ではなく住み慣れた場所で、自分らしい暮らしを続けながら医療を受けたいと願うのではないのでしょうか。

在宅医療の主要な役割は、病気を「治すための医療」だけではなく、正常に戻らない病気や生活機能障害を抱えている人たちに「支える医療」であるといえます。

生活上の様々な障害は病気が原因で起こる事が多く、また生活の障害がさらさら新たな合併症をもたらすというように、生活上の問題と医療の問題は深く関わっています。このため、身近な医療の問題を生活と切り離すことなく、地域の実情や生活状況を理解し対応できる、かかりつけ医師・かかりつけ薬局が重要な役割を果たしています。今回は、薬剤師が在宅の医療、介護のスタッフと連携して行っている訪問薬剤管理指導についてお知らせします。

高齢になると複数の病気をもち、種類の薬を併用していることが多くなると思いますが、常用量であっても、生理機能・生体機能の低下から、薬が効きすぎたり副作用が現れることがあります。また副作用の症状を、病気の老化によるものか、服薬支援を行い、患者さんが生活の質を落とさないように手助けをしたいと思っています。この費用は、健康保険または介護保険の対象となりますので、往診の際に医師にご相談ください。

薬方法や、薬の効果や副作用について説明し、お薬手帳などから併用されている薬を確認します。月に2〜4回の継続的な訪問の中で、きちんと薬が服薬できているか、薬の効果が副作用の症状が出ていないか確認し、疑いがあれば速やかに医師に報告し対応します。

また、理解力の低下による飲み忘れを防ぐため、服薬カレンダーを勧めたり、生活習慣に合わせた服用方法への変更や、錠剤やカプセルが喉につかえて薬が飲みにくくなった場合は、口の中で溶ける薬や簡易懸濁液などに変更していただくように医師に依頼します。

その他にも薬の変質を防ぐための保管方法を指導するなど、様々な服薬支援を行い、患者さんが生活の質を落とさないように手助けをしたいと思っています。

**インフルエンザワクチン 予防接種実施中**

▼受付窓口：健診課(代々木病院東館1階)  
電話 03(3478)7038

▼接種日：午前=月~金(9時~11時)  
午後=火・木(13時~15時)

▼電話でご予約ください。  
▼外来診中の方は、受診時看護師に接種希望を伝えてください。  
▼費用=3,675円(税込)  
▼東京23区民で「予防接種記録票」を持参の方の自己負担額は2,200円です。